

第2回 簿記ってナニ？（Ⅱ）

<要 点 整 理>

1. 決算整理

- ・会計期間が終わったら、すぐに儲けの額が明らかになるかというところではなく、通常は、期末日のあとに**決算整理**というものを行って、利益を計算します。したがって、3月31日が期末日の会社であれば、おおよそ4月中に決算整理を行い、利益の額が明らかになるのです。
- ・さらに、大きな会社の場合、決算整理後に公認会計士によるチェックを受けます。このチェックのことを**監査**といい、具体的には、貸借対照表や損益計算書に間違いがないかやインチキをしていないかなどがチェックされます。
- ・公認会計士による監査が終了したら、会社の経営者は株主に対して、**株主総会**の召集通知を出し、株主に集まってもらって会社経営の結果報告を行います。ここで株主たちが話し合っ、会社が稼ぎ出した利益をどのように使うか決めるのです。このことを簿記では**利益処分**といいます。しかし、実際には会社の経営者側が何にいくら使うかを決めて、株主は事後承認するという形が多いようです。

2. 簿記の種類

- ・簿記にはいろいろな種類があり、分類の方法にも、記録方法による分類と業種による分類とがあります。
- ・記録方法による分類では、簿記は「**単式簿記**」と「**複式簿記**」に分けることができます。**単式簿記**とは、現金の増減についてのみ記録していく簿記のことです。通常、「おこづかい帳」や「家計簿」は現金の増減についてのみ記録していくので、これらは単式簿記ということになります。それに対して、**複式簿記**とは、現金の増減だけでなく、例えば商品や借金などについてもその増減をとらえていく簿記のことです。会社の場合は、現金だけでなく商品や借金についても増減をとらえていくので、複式簿記ということになります。このように、1つの取引を複数の角度からとらえて記録するので、複式といいます。
- ・業種による分類では、代表的なものとして、商品を仕入れて販売している会社、すなわち卸売業や流通業で用いられる**商業簿記**と、物を作っている会社、すなわち製造業で用いられる**工業簿記**があります。他にも、建設業で用いられる**建設業簿記**や銀行で用いられる**銀行簿記**、農業で用いられる**農業簿記**などがあります。

3. 簿記を必要とする人とは？

- ・簿記を必要とする人とは、会社の経営者をはじめ、投資家や銀行、従業員など、会社にかかわる様々な人々が簿記を必要としています。

(次ページへ続く)

青森中央経理専門学校 入学前スクールプログラム

- 経営者は、会社の経営を舵取りするのが仕事です。現在の会社の状況を把握して、今後進むべき道を明らかにして、従業員を引っ張っていかなければなりません。そこで、貸借対照表や損益計算書から現在の会社の状況を把握したり、今後進むべき道を明らかにしていくため、簿記が必要なのです。
- 投資家とは、株を購入してお金を儲けようとする人のことをいいます。株は安く買い、高く売ることによって儲けることができることから、今後値上がりする株を見つけ出すことが重要となります。そこで、投資家はいろんな会社の貸借対照表や損益計算書をじっくりと分析し、今後値上がりしそうな会社を探して、その会社の株を買って、自らも儲けようとしています。したがって、投資家にとっても簿記が必要なのです。
- 会社が銀行からお金を借りるとき、銀行はその会社の貸借対照表や損益計算書を見てお金を貸しても大丈夫かどうかを判断することから、銀行にとっても簿記が必要なのです。
- 従業員にとっても、たとえば、経営者に給料の増額を要求する際に、ただやみくもに交渉するよりも、損益計算書を持って行って交渉したほうが説得力があるので、簿記が必要なのです。